

国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時

会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど

会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）

主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」

後 援：JICA 横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい。）

台風等により、中止となった場合は、中止された発表講演は翌月の第一水曜日の15:30～17:00に延期します。）

問合せ先：横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会

Fax:045-663-3263 担当：野口丞治（0467-24-7203）

URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com



赴任国（講師名）	「タイトル」講演概要	
第135回 11月16日 (水) ベトナム (鈴木 新)		<p>「フリーフロー生産方式の導入」</p> <p>派遣先のベトナム生産性本部は、ローカル企業へ生産性と品質管理の向上を指導する機関で、日本の工場管理・品質管理の考え方と実際に企業に普及することが期待され、講座や講演を各地で行った。活動の後半は製菓会社の改善活動を具体的に指導する機会を得て、製品包装職場でベトナム人に適した流れ作業化を行い、生産性を大幅に向上できた。合わせてベトナム市民の生活と、少数民族の生活に触れたい。</p>
第136回 12月21日 (水) アルゼンチン (天野 浩)		<p>「アルゼンチン国立工業大学での日本の生産方式の技術移転」</p> <p>アルゼンチンは長年経済的に低迷が続いている、恵まれた農牧業のほかに製造業も盛んであるが、中小企業が中心で近代化の遅れが目立っている。2年間日本の生産管理の指導（トヨタ生産方式への期待が大きい）を行った後、熱心な生徒と共に問題を抱えた企業に出向いて、現場での改善を実施した。経営者の説得、作業員への説明、自分の体験を超えた能力の必要性などを解決しながら、やれば出来る貴重な体験であった。</p>
第137回 1月18日 (水) パラグアイ (深沢勝良)		<p>「インディヘナ民族の自立を見つめる」</p> <p>パラグアイは中南米諸国でも下から二番目に位置する最貧国。国造りのために、”海外からの投資誘致”のお手伝いをしました。驚くことに、国民の大部分がグワラニ部族語を話し、メスティソ（白人と先住民族の混血）で構成されているという、中南米でも特異な国です。私の心を捉えたのは、今でも4言語17部族が500を超えるコミュニティに住み、その特異な文化・慣習・言語をキープしている事でした。</p>
第138回 2月15日 (水) マラウイ (久保 昇)		<p>「マラウイにおける太陽光発電」</p> <p>アフリカ南部に位置するマラウイは世界最貧国の一つで電力事情がまだ悪く首都のリロングウェなど大きな町ではかなり普及して来たが国全体では電化率7パーセントほどです。地方では特に無電化地域が多く電気が必須の病院に日本政府が援助して設置した太陽光発電がワクチン保存用冷蔵庫や夜間の照明に大変役立っています。地方病院の太陽光発電の維持管理と要員教育のために活動した内容をお話します。</p>
第139回 3月15日 (水) ネパール (中川路のぞみ)		<p>「びっくりを楽しみながら」</p> <p>シニアボランティア活動は、私にとって初めての海外生活だった。職業訓練校を管理するコンピュータシステムを開発するという活動内容のみならず、生活面でも、常識が通用しないカルチャーショックに何度も打ちのめされながらも、ネパール人の明るさと大らかさに助けられ、楽しく過ごすことができた。この活動と、その中で学んだこと、そして帰国後日本で行っている国際協力についてお伝えします。</p>